

集団訓練「さくらの会」では、今年も他施設同時開催のオンラインレクリエーションを昨年度より参加機関を増やし11月に実施しました。大まかな進行はスタッフで行いましたが、開会・閉会の挨拶やレクリエーションの得点発表などは利用者様にも分担して行いました。緊張しながらも終わった後は「良い経験になった」との言葉を頂きました。レクリエーションでは、写真や説明文から答えを探る「画像当てクイズ」を実施しました。チーム制で実施し、チーム毎に多くの意見が飛び交い盛り上がりつつある様子でした。また、通常のプログラムでは、新型コロナウイルス感染症の流行により中止になっていた期間がありました。オンラインを使用したプログラムを今後他の場所でも生かせるよう検討したいと思っています。1月末の地域リハビリテーション広域支援センターとの合同連絡協議会では、「当事者会・家族会への支援について」をテーマに開催しました。アンケート報告とパネルディスカッションの後はグループ毎にディスカッションの時間を設け、さらに掘り下げたテーマで意見交換を行いました。今回も多くの機関・職種の方に参加頂きましたので良い情報交換の場になっていたかと思えます。

ただいまイベント準備中!3月25日土曜日に安房地域の高次脳機能障害当事者と家族の会(なんぼーこーじ)と当院とのコラボ企画として『ドキュメンタリー上映会「今を忘れない」～高次脳機能障害になって～』を計画しています。本企画は「当地域に住む方々に見えない障害である、高次脳機能障害について一人でも多くの方に知って欲しい」という普及啓発を目的としています。この普及啓発上映会はコロナ禍になる前は毎年実施していました。今年は3年振りの開催ということで前回と色々な状況が異なる中、感染対策を含め当院支援事業のメンバーで準備を進めています。支援事業に携わって下さる当院以外の事業所の方々も率先した協力を頂いており、当日には各事業所の特徴や支援の内容についても紹介頂くこととなっています。このイベントを通して、高次脳機能障害という症状が当たり前に聞かれる言葉となるように、また必要な情報が必要な方へ届けたいと思っております。

少し前になりますが、令和4年9月11日(日)に開催された「高次脳機能障害当事者とそのご家族向けの交流会」についてご報告致します。今回、東総就業センターとの協働で初めての試みとして開催致しましたが、3組の当事者のご家族が参加され、支援事業者の方やスタッフを含め13名の方にお集まり頂きました。前半はミニ講義として当院作業療法士より「脳疲労について知るう」をテーマに、脳疲労についての説明や、チェックリストでの脳疲労状態の確認、ストレッチなどの対処方法の実演などを行いました。脳疲労対処法については参加されたご家族より「参考になった」との感想を頂きました。後半は、当事者のご家族に分かれて交流会を行いました。ご家族側では当事者との関わり方など、同じ境遇における共通した悩みが話題に挙がり、当事者側でもそれぞれの高次脳機能障害の症状に対する対処法について話題が挙がっていました。次年度も開催を検討しております。開催回数を重ねるにつれてより多くの当事者やご家族に参加して頂き、当事者・ご家族同士の交流の場として定着していければと思います。

編集後記

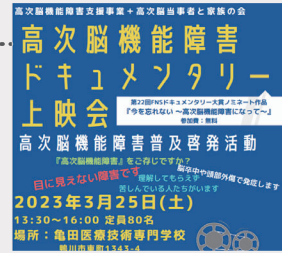
■コロナ禍に伴うマスク着用が3月13日ようやく解禁。これからは街や学校で子どもたちの笑顔が見られると思うと心が和みます。笑顔はまわりを幸せな気持ちにするだけでなく、幾つかの素晴らしい力があるのをご存知ですか? 私たちは「笑う」ことで心身がリラックスしたり、脳内ホルモンが分泌されて幸せな気分になるのだそうです。そんなことあるのかな?と思ったあなた、口角を上げて笑顔作りをチャレンジを! なにか変化を感じませんか? (四代目H)

■号のイベント報告は紙面2ページを使って盛りだくさんです。人数を減らしての3年ぶりの集合研修。記録用に撮られた写真から、会場の空気や人の熱量が直接感じられました。編集側として参加者の熱心に取り組んでいる姿を見えて嬉しくなりました。来年度も高次脳研修会は開催します。間接的ではありますが、皆様の姿を多く写真で拝見できたらと思っています。来年度もこ～じのう掲示板をよろしくお願ひします。(Y)

千葉県支援拠点機関情報



▲集団訓練「さくらの会」



▲3/25上映会のチラシ



▲当事者とその家族向けの交流会(9/11)

千葉県内には千葉県リハの他に、地域支援拠点機関が3つあります。毎号3つの支援拠点機関の取組みや情報を掲示板のなかで発信していきます。

こ～じのう 掲示板



こ～ちゃん 高次脳支援センターキャラクター

- 特集 気軽に参加してみよう! ~カフェや家族会~
●支援センターだより
●全国の動き・イベント講習会報告

こ～じのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関する情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージを頂き掲載しております。



「よろしくお願ひします」

NPO法人スマイル安房 (南房総高次脳機能障害家族と支援者の会 なんぼーこーじ)

理事長 石黒弘明

こんにちは、南房総家族会の石黒です。当会発足から早15年になりますが、家族会発足はその2年前の息子の交通事故がきっかけでした。居眠り運転の車が背後から激突、救急で病院の集中治療室から意識不明で半月後、なんとか回復しますが傷病名は「びまん性軸索損傷」いわゆる高次脳機能障害でした。当時、息子は高校卒業で、すでに勤める会社も決まっていたが、退院できず、就職を諦めることとなり、家族としては怒り心頭で裁判へ。医師からは「高次脳機能障害」と言われ、障害者であれば地域の保健センターで「どのような手続きが必要なのか?」と聞きに行っても、担当者からは「高次脳ですか?」と言われてしまい話が噛み合いません。そこで、当時の千葉県知事であった望本さん宛てに(目安箱のような知事に直接届くメールを使って)この間の経緯を伝え、「家族としてはにっちもさっちも行かない、どうすればいいのか?」と送りました。帰ってきた返事は『頑張って下さい』さて? 困った! 数ヶ月後、息子が病院からリハビリ病院へ転院しました。そこで、なにげなく目に留まったのが、新しくできた「千葉県中核地域生活支援センター」のポスター。日頃、家族で話していた「高次脳ってうちだけではないはず」という思いを胸に中核へ向向き、担当者に「家族会を作りたい」と要望したのです。その後、中核の皆さんも協力的に動いてくださり、家族会「南房総高次脳機能障害家族と支援者の会」が正式に誕生しました。亀田リハビリ病院や医療の専門職の皆さんも活動に参加してくれました。このとき「望本知事の返事の意味ってこれだったのか!」と思ったものです。その後、県内に家族会が4団体あることや千葉リハのことを知りました。当時の高次脳機能障害支援センター長であった太田さんに、「南房総は、医療の現場に高次脳を支援する場はあるが、行政の現場に高次脳支援の窓口が無いため苦戦しています」と話したところ、安房圏域の保健センターに強力に入っていたなど最強の援軍を得たおかげで、家族会というだけで地域の中で話が噛み合うようになりました。千葉県の先端の人口減少の地域ですが家族会として大変感謝申し上げます。全国の仲間にも励まされてこまどまど来ました。今後も亀田リハビリ病院・中核支援ひだまり・B型就労支援大丈夫の皆さんと更に前に進んでいきますのでよろしくお願ひ致します。

こ～じのう 掲示板

発行日 ■ 2023年 3月 31日
発行 ■ (社福) 千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハ リハビリセンター
千葉県緑区善田町 1-45-2 TEL 043-291-1831(代) 内 198
発行責任者 ■ 地域支援センター 高次脳機能障害支援部
部長 長谷川 純子 [高次脳機能障害支援センター]
http://www.chiba-reha.jp/ ※ホームページからご覧いただけます



令和4年度
高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会 (千葉県主催)

2022.11.24
千葉リハ

昨年度はWebでの開催でしたが、2年ぶりに千葉リハでの集合開催となりました。今回の主な内容は、各拠点機関から特に力を入れていることを中心に報告があった他、未だ対応が確立されていない社会的行動障害の強い方に対する支援について、県内の支援拠点機関や行政、各県士会、家族会等からの参加者による活発な意見交換が行われました。その中で社会的行動障害の強い方の支援部門の設置を求める声や、支援方法と環境調整の課題、精神科との連携の重要性など様々な意見が出され、各参加者から引き続き積極的に連携、協力していくことの確認がありました。より良い高次脳機能障害支援確立のために、当センターでも引き続き普及啓発活動も全県で協力をして行っていきたいと思っています。

令和4年度
第2回高次脳機能障害支援普及事業全国連絡協議会

2023.2.17
Web開催

会議は2月17日にオンラインにて開催されました。会議では先の地域ブロック合同会議で提出された課題についての質疑応答が行われ、県内の協力医療関係等の整備、支援体制の強化・検討、自動車運転支援、就労支援、小児高次脳支援、普及啓発など、各県の様々な課題やその取り組みに関わる活発な情報交換が行われました。また、厚生労働省障害保健福祉部担当者より、次年度も引き続き高次脳機能障害支援を普及していくことは重要であり、特に次年度は高次脳機能障害及びその関連障害に対する地域支援ネットワーク構築促進事業として、従来の予算とは別に追加で予算が措置されるといったお話もありました。会議の主催である国立障害者リハビリテーションセンターからは、全国の高次脳支援の情報把握できるよう高次脳機能障害情報・支援センターのウェブサイトの改修を2月末より開始するとの報告もありました。



令和4年度
第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

2023.2.17
Web開催

最初に講演「小児期の高次脳機能障害への支援」(言語聴覚士 廣瀬綾奈氏)があり、それに続いてシンポジウム～小児の高次脳機能障害に関する家族支援について～が行われました。シンポジウムは、全国の小児の当事者家族会に関わる方がパネリストとして参加され、東京の高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会と、北海道の脳損傷友の会コロポックル、そして長崎県の高次脳機能障害支援センターからそれぞれの活動状況の報告があり、続いて質疑応答が行われました。各家族会が情熱を持って当事者と家族のために会を立ち上げて運営を続けている状況がとてもよくわかり応援したくなるシンポジウムでありました。



高次脳機能障害支援センターの近況や支援活動などを報告します。

日本高次脳機能障害学会学術総会でポスター発表しました!!

山形で行われた第46回日本高次脳機能障害学会でポスター発表を行いました。現地開催された様子を支援センターだよりに掲載します。

2022年12月2～3日にやまぎん県民ホール及び山形テルサで開催されました。当日は東北地方に寒気が流れ込むタイミングとなり寒さに震えあがりましたが、幸いにも大雪にはならず、無事に2日間を過ごすことができました。今年もコロナ禍の影響でハイブリッド開催となり、現地に足を運ばれた方はあまり多くない印象でした。ただ人数が少ないことで、ポスター発表などは近くでじっくりと話を聞くことができるなど少人数ならではのよさもありました。高次脳機能障害の支援について改めて学ぶよい機会となりました。

ポスター発表内容

「高次脳機能障害者の自動車運転再開に関する紹介基準作成の試み」長谷川純子ほか
概要:高次脳機能障害者の自動車運転再開支援に関わる外部医療機関と当センターとの連携に関わる試みの一つを発表しました。



▲12/3やまぎん県民ホール

2022

『高次脳機能障害 地域支援者向け連続講座』の全講座が終了しました!!

今年度で4回目となった地域支援者向け連続講座。2年ぶりの集合研修となった本講座は、千葉市民ホールに場所を変えての開催でした。



▲第4回講師の先崎章先生(1/13千葉市民会館小ホール)

2022年度 講座開催日程・参加数

第1回	7/8(金)	高次脳機能障害概論	78名
第2回	9/9(金)	各論1:神経疲労(脳疲労)・注意障害	61名
第3回	11/4(金)	各論2:記憶障害・遂行機能障害	51名
第4回	1/13(金)	各論3:社会的行動障害・失語症	43名

毎回のアンケートでは、参加者全員の方から「役に立った」と回答をいただきました。参加者との交流しながらのミニ体験は内容ともに好感度が高く、明日から実践したい、との感想もいただきました。連続講座は来年度も開催を予定しております。皆様のご参加お待ちしております。



▲ミニ体験の交流

2022

『第2回 当事者・家族のための高次脳機能障害勉強会』を開催しました!!

地域支援者向け連続講座の“当事者・家族版”という趣旨で始めた本勉強会は3年目を迎えました。支援センターだよりでは、12/21に行われた第2回に掲載します。

第2回目の参加者は、集合が千葉リハ17名、Web参加が16名でした。他にもなんぼーこーじ主催で亀田リハ病院に11名の方が集まり、YouTubeで視聴しました。具体的な事例が多く、わかりやすい内容だと好評でした。本勉強会も来年度の開催を予定しております。近くになりましたら、掲示板、千葉リハのホームページでご案内します。



▲休憩時間に身体をほぐす参加者(12/21千葉リハ)



NEW!!

我孫子市

① 高次脳機能障害カフェ lieto (リエット)

- 代表：我孫子市社会福祉協議会(会長：鈴木壽幸) / 連絡先：04-7184-1539
- 活動場所：軽喫茶&福祉ショップ「ほばら」
(我孫子駅南口、徒歩2分「福祉ふれあいプラザけやき」内1階)
- 日程：第1月曜日 13:00-15:00
(祝日の場合は原則翌週に振替)



▲毛糸でアクリルたわし作り

■活動内容：我孫子市社会福祉協議会では、当事者やご家族、支えあう地域の方々、集いの場で楽しい時間を過ごすための空間として平成28年2月から「高次脳機能障害カフェ lieto」を開設しました。「lieto」はイタリア語で「楽しい・愉快な・幸せ」という意味です。仲間と一緒に居心地の良い時間を過ごすことができるようにとの思いで名づけられました。まずはゆっくり飲み物を飲みながら情報共有や近況報告。その後はイベントの開始です。創作活動や音楽鑑賞、お菓子作りなど内容は多岐にわたっています。時には活動場所を離れ、他の会場でそば打ちや吹き矢などの体験もあります。現在は40代から50代の比較的若い方が参加されています。ご興味のある方、見学等まずはお気軽にお問い合わせください。お待ちしております。

千葉市・船橋市

④ ちば高次脳機能障害者と家族の会

- 代表：角田義規 / 連絡先：090-4249-3815
- 活動場所・日程：活動内容によって変わります。
①～④を参照ください。

■活動内容①『定例会』会場：船橋市中央公民館
日程：隔月ごとに1回(詳細はお問い合わせください)
内容：家族の困りごとの相談受付や医療・福祉・行政の情報提供、勉強会(例:「親なき後の資産形成」他)等。
②『千葉市家族会』会場：千葉市花見川ほらテアセター
日程：毎月第2日曜日 / 内容：千葉市及び近隣にお住いの当事者・家族の相談・情報交換の会。
③『ディアひまわり』会場：船橋市障害者福祉センター / 日程：毎月第2、第4木曜日
内容：高次脳機能障害の当事者に向けた日中活動(例:各人のお話しコーナー、言葉遊び、簡単な体操等)の機会を設けています。
④『こ～じのうカフェ』■詳細は②をご覧ください。

▼ディアひまわりの活動(2/9船橋市障害者福祉センター)



柏市

② 東葛菜の花「高次脳機能障害者と家族の会」

- 代表：大寺龍彦 / 連絡先：080-9570-6534
- 活動場所：松戸ふれあい22
- 日程：隔月第4日曜 13:30-16:00
- 会員数：正会員27家族
- 活動内容：活動場所で開催、演奏会、講演会、コラージュ制作、ゲーム大会、スノードーム制作、脳トレ教室などを行っています。



▲2月例会(2/19)

NEW!!

松戸市

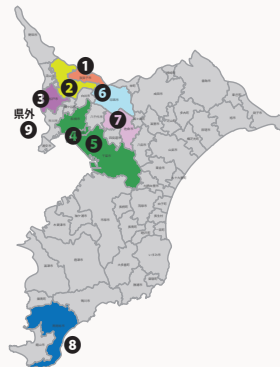
③ ちば家族のWA

- 担当：旭神経内科リハビリテーション病院
医療ソーシャルワーカー：平中 / 連絡先：047-385-5566
- 活動場所：Zoomで参加
- 日程：2、5、8、11月の第3日曜日(予定)

■活動内容：旭神経内科リハビリテーション病院では、平成25年度より、病気を怪我により高次脳機能障害を患いながら、復職・新規就職を果して現在社会復帰をされた方、これから復職・新規就職を目指し活動しておられる方やその御家族様を対象に懇話会を実施しております。これは、「ピアサポート」と呼ばれる同じ障害を持った方同士が互いに話し合い、支え合うことで、自身の回復や成長につなげて行くプログラムの一つです。現在、zoomを用いたオンライン参加と会場参加のハイブリッド形式で行なっています。ご興味のお有りな方は、ぜひ一度下記までお問い合わせ下さい。
asahi-koujiou@yayoiikai.or.jp



▲ちば家族のWAのチラシ



南房総市

③ 南房総高次脳機能障害家族と支援者の会 なんぼーこーじ

- 代表：石黒裕美 / 連絡先：090-8505-4348(石黒弘明)
- 活動場所：NPOスマイル安房「楽市座」
- 日程：毎月第3土曜
- 会員数：約15名
- 活動内容：フリーマーケットなどを通して地域行事に積極的に参加し、障害や家族会をアピール。亀田リハ病院、地域活動生活支援センターひだまり、障害者就業・生活支援センター中里、NPOスマイル安房等の支援をいただいで活動しています。会員相互の交流と親睦を兼ねて南房総地域の施設見学やバスハイクも行なっています。時間があれば遊びに来てください。歓迎します。

千葉市

⑤ 高次脳機能障害若者の会 ハイリハちば

- 代表：石原さとみ / 連絡先：090-1103-4738
- 活動場所：千葉市ハーモニープラザ
- 日程：偶数月第3日曜
- 会員数：30人ほど

■活動内容：20～40歳代の方を中心に活動。家族の交流、当事者の交流を通し、ストレス解消の場となっています。千葉市ハーモニープラザをお借りしてスポーツ、ゲーム、音楽療法等を開催。その他、香澄公園、青葉の森公園にお出かけすることもあります。同じ病を持つ仲間と、話したりするのは楽しいし、親としても、経験者の話を聞くのは、参考になるし、安心します。是非、参加して下さい。



▲『こ～じのうカルタ』で遊ぶ

東京都

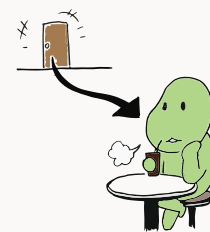
⑥ 高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会 ハイリハキッズ

- 代表：中村千穂 / 連絡先：ホームページ
「高次脳機能障害ハイリハキッズ」で検索
- 活動場所：東京都江戸川区内の区民館など
- 日程：奇数月第3日曜 13時～17時
- 会員数：11家族 (OB家族含まず)
- 対象者：小学6年生までの高次脳機能障害のあるお子さんとその家族
- 活動内容：親の話し合い、情報交換をしています。親が話し合っている間、当事者ときょうだいの子ども達は支援スタッフ、学生ボランティアのサポートを受けながら、ゲームや工作等を行っています。



▲工作したものでゲームをする子ども達

NEW! 掲示板初掲載



ホット・・・
落ち着くなあ



▲ふれあいサポート印西にて活動

印西市

⑥ 高次脳機能障害家族交流会

- 代表：佐藤直人(社会福祉法人印旛福祉会) / 連絡先：0476-42-1118(担当：松本)
- 主催：ふれあいサポートセンターいんざい【印西市指定管理事業所：自立訓練(生活訓練)】後援：印西市地域自立支援協議会相談支援部会
- 活動場所：ふれあいサポートセンターいんざい ■日程：年2回(6、11月)
- 活動内容：「高次脳機能障害 家族交流会」は、平成28年から1年間に2回のペースで開催して参りました。ご家族同士で日々の生活の様子を話し合い、日頃の悩みや不満・不安について語り合ってもらっています。参加した方からは「自分だけじゃない。励みになった。」という御意見をいただいています。また、過去には千葉リハビリテーションセンターの方に協力して頂いて講演をお願いしたり、弁護士の方をお招きして、「成年後見制度と家族信託」についての説明をして頂いたりしてきました。1年間に2回の開催を計画しています。今後の活動については未定ですが、日程が決まり次第、印西市の広報で告知する予定です。小さな取り組みではありますが、今後もご家族が交流する場を継続して提供して行きたいと考えています。

佐倉市

⑥ こ～じのうカフェ

- 代表：角田義規 / 連絡先：090-4249-3815
- 活動場所：C's cafe シーズカフェ
(佐倉市志津市民プラザ1F、NPO法人C'sコミュニティ運営)
- 日程：毎月第4日曜日 13:30-15:30
- 活動内容：こ～じのうカフェは、美味しい手作りケーキと森のコーヒーを味わいながら、その日のテーマなど決めず、当事者と家族が楽しくしゃべりをしよう、C's cafeを会場に開催しています。カフェには、脳卒中で倒れたご主人を心配するご家族や、社会的行動障害の症状のあるご主人への対応に苦慮されているご家族、いつもカフェを楽しみに参加されている当事者の方々など、様々な境遇の皆さんがひとときの楽しい時間を過ごされています。コロナでC's cafeが休業になった事も有り、現在は4～5人程度の参加となり、NPO法人C'sコミュニティの就労継続支援B型の通所者・職員との交流も行っています。C's cafeは京成本線津駅から徒歩3分と交通も便利です。高次脳機能障害の当事者・家族以外の方でも参加フリーです(参加費¥310)。是非一度ご参加ください。お待ちしております。

▼こ～じのうカフェの活動様子(2/27C's cafe)





<p>第5回高次脳機能障害生活版ジョブコーチ支援研修会</p>	<p>第19回高次脳機能障害リハビリテーション講習会</p>
<p>2022.11.16 13:00-16:00 千葉リハ`リ-ジョンセンター</p>	<p>2023.1.21 13:00-16:00 千葉県教育会館大ホール</p>
 <p>3班 参加者24名</p>	 <p>シンポジウムの様子 参加者139名 ▲講師の佐伯覚先生</p>
<p>今年度は集合研修に戻し、24名の方にご参加頂きました。講義後のグループワークでは、架空事例を“生活版ジョブコーチとして支援する”という視点で考えて頂き、活発な意見交換がされていました。参加者特典として『生活版ジョブコーチ支援ハンドブック』を配布したところ熱心に目を通して下さり、「さっきコレで読んだのですが…」とすぐにエッセンスを取り入れて発言される様子も見られました。皆様の支援力・対応力に敬服すると共に、この支援技法が地域に拡がり、高次脳機能障害をお持ちの方の安定した生活の一助となれば…と願ったひと時でした。</p>	<p>本講習会は、前半がご講義、後半が当事者の方を中心としたシンポジウムから構成され、たいへん充実した内容でした。受傷発症後、治療から就労等に至るまで、誰に相談すればよいのか、どのように行動し自己管理すればよいのか等を、患者様/ご家族の目線に立って丁寧に説明し、支援されているといった佐伯先生のお話は、とても勉強になりました。また、現在就労している当事者の方の「訓練を通して自分の弱みに気づくことができたので、それを現在の職場へ伝え、理解して頂くことができている」というお話は、たいへん印象的でした。</p>
<p>2022年度 高次脳機能障害小児交流会</p>	<p>2022年度 第2回家族のつどい</p>
<p>2023.1.28 13:30-15:00 千葉リハ`リ-ジョンセンター</p>	<p>2023.2.15 10:00-11:15 千葉リハ`リ-ジョンセンター</p>
 <p>参加者2家族</p>	 <p>参加者14名</p>
<p>今年度は数年ぶりに小児家族交流会を行いました。今回は小学生を対象に6名の方にご参加頂きました。始めに全員でレクリエーションを行い、その後はお子様グループとご家族様グループに分かれて活動しました。お子様グループでは自己紹介やビンゴをして盛り上がりました。ご家族様グループでは「高次脳機能障害の子どもの支援について」講義を行った後、お子さんの自宅や学校での様子をお話して頂きました。また進学や就職について心配とお話が挙がりました。ご家族同士の交流や高次脳機能障害の学習の場が少ないため、今後も定期的に行っていきたいと思っております。</p>	<p>今年度2回目の家族のつどいは、講義はなく懇話会のみを行いました。14名の方が参加されました。3グループに分かれて1時間程度お話し合いをしましたが、それぞれ自身の悩みをお話されたり、すこし先を行かれています先輩からアドバイスをされたり、とても活発な意見交換がされていました。「同じ悩みを持っていて自分だけではないんだと思った」「このような機会をもっと増やしてほしい」「皆さんと話が出来る考え方が少し変化できた」「ここに参加することが自分自身の楽しみとなっています」など感想が聞かれました。</p>



<p>第20回高次脳機能障害交流会</p>	<p>令和4年度 千葉県高次脳機能障害支援コーディネーター研修会</p>
<p>2023.2.18 13:15-15:00 千葉リハ`リ-ジョンセンター</p>	<p>2023.2.21 17:00-18:30 Web開催</p>
 <p>参加者72名</p>	
<p>コロナ禍で中止されていた交流会が3年ぶりに開催されました。開催のお知らせから早い時期の申込みが多く、顔を合わせて話したいとの皆様の思いを感じて準備が進められました。当日は72名の参加がありました。会の前半はナチュラルサポートの講義でした。当事者の方から「自分でやらなきゃといつも頑張るが、サポートしてもらい状況を整理することも自立の1つだと分かろうれしかった」との感想がありました。後半は当事者と家族で分かれたグループでの意見交換でした。活発な意見交換がなされ、様々な話題を語り合う時間となりました。</p>	<p>昨年に引き続きオンラインでの開催となり、各支援拠点機関から医師、セラピスト、ソーシャルワーカー等30名弱が参加しました。就労をテーマに「高次脳機能障害者への就労支援の視点」の講義の後、「新規就労」「復職」「定着」「その他」の事例ごとに多職種で構成されたグループに分かれ事例学習を行いました。それぞれの支援拠点で行っている支援や連携している地域資源について情報共有をする機会となりました。研修を通して支援拠点のコーディネーターの交流が活発になり、千葉県内の高次脳支援の充実につながることを期待します。</p>
<p>第5回小児高次脳機能障害支援者向け研修会</p>	<p>第6回長生圏高次脳機能障害就労支援研修会</p>
<p>2023.2.22-28 オンデマンド配信</p>	<p>2023.2.28 15:00-17:15 茂原市役所</p>
 <p>▲研修会のチラシ</p>	 <p>▲グループワークの様子</p>
<p>支援者を対象とした第5回目の研修は、学校生活における高次脳機能障害の症状とその支援について、リハビリテーションの視点からお話しました。オンデマンド方式での開催は3年目となります。遠方からも参加しやすく、申し込み者340名のうちおよそ4分の3が県外でした。また、県外の教育関係者等を対象とした同様の研修を別途承り、「概要」から「具体的な支援方法」へと、期待される研修内容がシフトしてきたと感じています。アンケート結果は好評でした。事例に基づく支援や事例検討の要望があり、今後の企画の参考にしたいです。</p>	<p>今回は、「顔の見える関係作り」を目指し、圏域を限定し、障害者就業・生活支援センター長生プリオと共催で就労支援研修を行いました。千葉リハからは、高次脳機能障害の概論についてお伝えし、長生プリオのセンター長橋本様からは支援事例を挙げていただきました。その後、グループワークを行いました。グループワークでは話がはずみ、「顔の見える関係作り」に繋がったと思います。参加された皆様からは、地域の支援者の方からの支援事例のお話が好評でした。今後も地域の支援機関との共催という形で開催を継続できればと思っています。</p>